

令和7年度

全国学力・学習状況調査 川崎市報告書
—児童生徒の学習・生活の状況について—

令和7年8月

川崎市総合教育センター

全国学力・学習状況調査 結果提供・公表スケジュールについて

令和6年度まで（日付は令和6年度）

7月22日

○各教育委員会に所管の都道府県・指定都市の結果を提供

○全都道府県・指定都市の結果の公表

※新聞各紙が指定都市順位等も掲載

7月26日

○学校向け結果の提供

令和7年度

7月14日

○学校向け結果の提供

7月22日

○各教育委員会に所管の都道府県・指定都市の結果を提供

8月以降

○全都道府県・指定都市別結果の公表

※平均正答率や箱ひげ図、散布図等

令和7年度全国学力・学習状況調査 川崎市報告書

－ 児童生徒の学習・生活の状況について －

1 概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施状況 ※調査の種類により調査人数は若干変動

小学校 115 校 特別支援学校 1 校（小学部） 第 6 学年 11,387 名

中学校 52 校 特別支援学校 1 校（中学部） 第 3 学年 8,962 名

(3) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査 小学校調査 - 国語・算数・理科 中学校調査 - 国語・数学・理科

教科に関する調査は、次の（ア）と（イ）を一体的に出題している。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

（イ）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

イ 質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

（本年度の主な調査項目）

基本的な生活習慣等、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等、ICTを活用した学習状況、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等、総合的な学習の時間、特別活動、学習に対する興味・関心や授業の理解度等

ウ 学校に対する質問調査 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

エ 調査実施日 令和 7 年 4 月 17 日（木） ※中学校理科調査は 4 月 14 日から 17 日にかけて各学校が分散実施

（４）教科に関する調査結果の概要（理科調査の実施は令和 4 年度以来）

ア 教科に関する調査の平均正答数（問）と平均正答率（％）

	小学校調査					
	国語（14問）		算数（16問）		理科（17問）	
	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）
川崎市	9.6	69.0	10.1	63.0	10.0	59.0
全国	9.4	66.8	9.3	58.0	9.7	57.1

	中学校調査				
	国語（14問）		数学（15問）		理科（26問）
	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均 I R T スコア
川崎市	7.7	55.0	7.8	52.0	513
全国	7.6	54.3	7.2	48.3	503

※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果となっている。

※中学校理科は C B T（各自の G I G A 端末で解答）で実施し、I R T スコア（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示しています。

イ 本市の傾向

上記アのいずれの数値も全国の平均を上回っている。

2 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示すとおりである。

全体の傾向については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。

(△ 上回った主な設問 ▼ 下回った主な設問 5ポイント以上の差に下線)

結果の概要については、内容・領域等ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

(◇ 比較的できている点 ◆ 課題があると考えられる点)

(1) 小学校 国語

ア 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例)・【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する。

・【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。

・【ちらし】の中の一文を、【調べたこと】を基に詳しく書く。

・言葉の変化について、自分が納得したこととその理由をまとめて書く。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では68.0%、「書くこと」では71.6%、「読むこと」では60.5%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では77.3%、「情報の扱い方に関する事項」では65.4%、「我が国の言語文化に関する事項」では83.3%である。全ての内容において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全14問中12問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△ 3 三(1) 田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。(45.9%、+5.1)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

◇ 2 四(ア) 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことはできている。(83.3%、+1.7)

(イ) 我が国の言語文化に関する事項

◇ 3 一 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことはできている。(83.3%、+2.1)

(ウ) 話すこと・聞くこと

◆ 1 一 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。(54.7%、+1.4)

(エ) 書くこと

◇ 2 二 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することはできている。(83.8%、+2.0)

(オ) 読むこと

◇ 3 二(1) 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることはできている。(84.9%、+3.3)

◆ 3 二(2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。(55.7%、+4.4)

◆ 3 三(1) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。
(45.9%、+5.1)

◆ 3 三(2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。
(55.5%、-0.8)

エ 授業改善に向けて

(ア) 情報の扱い方に関する事項

「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う指導の充実」

図示などにより、語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解することが重要である。様々な学習活動において、目的を意識しながら、自分に合った方法で情報を整理で

きるように指導すると効果的である。

(イ) 話すこと・聞くこと

「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する指導の充実」

聞くことにおいては、事前に聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要である。聞きたいことについて、自分なりの予想や疑問に感じていることなどを、目的や意図に応じて内容ごとにまとめ、それらを互いに結び付けて関係を明確にできるように指導すると効果的である。

(ウ) 書くこと

- a 「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える指導の充実」

内容のまとまりで段落をつくるためには書こうとしている材料の中から中心に述べたいことを一つに絞り、中心となる事柄や、それに関わる他の書きたい事柄を明確にすることが重要である。また「何のためにその文章を書きたいのか」という目的を明確にもった上で目的を達成するために「何を書きたいのか」を整理し、書く内容の中心を決めることも重要である。

- b 「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実」

書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが重要である。児童が互いに書いた文章を読み合い、「どこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるのか」ということを中心に アドバイスし合う場面を設定すると効果的である。

(エ) 読むこと

- a 「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する指導の充実」

要旨を把握するためには、書き手が、どのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような意見をもっているのかなどに着目することが重要である。理由や事例を書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめることができるように指導すると効果的である。

- b 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける指導の充実」

必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。目的に応じて必要な情報かどうかを確

かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるように指導すると効果的である。

(2) 中学校 国語

ア 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

(例)・文章中の事象や行為を表す語句の意味として適切なものを選択する。

- ・発表の内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について助言する。
- ・手紙の下書きを修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。
- ・物語の構成や展開による効果について、自分の考えを理由とともに書く。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

平均正答率は、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」では 53.9%、「書くこと」では 53.0%、「読むこと」では 63.8%、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では 49.5%である。全ての内容において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全 14 問中 9 問で全国を上回った。全国との差が 5 ポイント以上である設問はない。

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

◆ 1 一 文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。(38.0%、+2.8)

(イ) 話すこと・聞くこと

◆ 2 一 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。(37.7%、-0.4)

◆ 2 四 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。(23.0%、-0.2)

(ウ) 書くこと

◇ 1 二 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることはできている。(82.8%、+0.3)

- ◆ 1 四 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。(30.9%、－0.1)
- ◆ 4 一 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることに課題がある。(53.6%、－3.7)
- ◆ 4 二 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。(33.0%、＋2.9)

(エ) 読むこと

- ◇ 3 一 表現の効果について、根拠を明確にして考えることはできている。(81.2%、＋1.5)
- ◇ 3 二 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。(90.4%、＋0.5)
- ◆ 3 四 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。(19.6%、＋2.5)

エ 授業改善に向けて

(ア) 言葉の特徴や使い方に関する事項

「文脈に即して意味に注意しながら漢字を正しく使うようにする指導の充実」

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を正しく使うように指導することが大切である。漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れるよう指導することが求められている。その際には、各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよう指導することが大切である。

(イ) 話すこと・聞くこと

「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する指導の充実」

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する際には、伝えたい内容が適切に伝わるよう効果的に資料や機器を活用することが重要である。その際、話の内容を踏まえ、話の要点や根拠が明らかになっているか、説明が不足していないか、中心となる事柄が強調されているかなど、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わっているかを確認し、資料や機器の使い方について検討することが大切である。

(ウ) 書くこと

a 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く指導の充実」

自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要である。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりし

て書くよう指導することが大切である。

b 「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える指導の充実」

書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることができるように指導することが大切である。叙述の仕方などを確かめるとは、文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順などが適切であるかなどをみることである。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(1)エに示された「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること」、第2学年〔知識及び技能〕の(1)「カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。」などとの関連を図り、学習した「知識及び技能」を生かして文章を整えるよう指導することが有効である。

(エ) 読むこと

「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える指導の充実」

文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。その際、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることができるよう指導することが重要である。

(3) 小学校 算数

ア 調査問題の内容

学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例)・ $0.4+0.05$ について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く。

- ・方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ。
- ・新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ。
- ・示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「数と計算」では67.4%、「図形」では61.0%、「変化と関係」では65.4%、「データの活用」では67.2%である。全ての領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全16問中15問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

- △1(2) 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く。(36.4%、+5.4)
- △2(2) 方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ。(58.6%、+8.4)
- △2(4) 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割しそれぞれの図形の面積の求め方を書く。(46.4%、+9.4)
- △3(1) $0.4+0.05$ について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く。(79.1%、+5.0)
- △3(2) $3/4+2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。(29.9%、+6.9)
- △3(3) 数直線上に示された数を分数で書く。(44.4%、+9.4)
- △4(2) 使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く。(55.6%、+6.9)
- △4(3) はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む。(66.0%、+5.1)
- △4(4) 10%増量したつめかえ用のハンドソープの容量が、増量前の何倍かを選ぶ。(54.0%、+13.1)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 数と計算

- ◇3(4) 異分母の分数の加法の計算をすることはできている。(82.5%、+1.2)
- ◆3(2) 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がある。(29.9%、+6.9)
- ◆3(3) 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題がある。(44.4%、+9.4)

(イ) 図形

- ◇ 2 (3) 角の大きさについて理解している。(81.4%、+2.1)
- ◆ 2 (1) 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することに課題がある。(57.6%、-0.7)
- ◆ 2 (2) 台形の意味や性質について理解することに課題がある。(58.6%、+8.4)
- ◆ 2 (4) 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題がある。(46.4%、+9.4)

(ウ) 変化と関係

- ◇ 4 (1) 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる。(86.6%、+3.8)
- ◆ 4 (2) 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することに課題がある。(55.6%、+6.9)
- ◆ 4 (4) 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。(54.0%、+13.1)

(エ) データの活用

- ◇ 1 (1) 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることはできている。(82.7%、+4.0)
- ◆ 1 (2) 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。(36.4%、+5.4)

エ 授業改善に向けて

(ア) 数と計算

- a 「分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、既習の整数の加法に帰着できるようにする指導の充実」
分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが重要である。
- b 「数直線上の目盛りが表す数を分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解を深めることができるようにする指導の充実」
数直線上の目盛りが表す数を分数で表す際、0 から 1 までは何等分されているのかに着目して、単位分数を捉えることができるようにすることが大切である。その上で、他の目盛りが表す分数を単位分数の幾つ分として考えることができるようにす

ることも大切である。

(イ) 図形

- a 「図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質に基づいて図形を弁別できるようにする指導の充実」
図形の置き方をいろいろと変えても、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目して、図形を弁別できるようにすることが重要である。
- b 「多角形の面積の求め方について、基本図形の面積の求め方を基に考察できるようにする指導の充実」
多角形の面積を求める際に、基本図形に分割するなど、面積の求め方を知っている既習の図形を見いだして、面積の求め方を考えることができるようにすることが重要である。

(ウ) 測定

「はかりの目盛りを読むことができるようにする指導の充実」
はかりを用いて重さを測定する際に、最小目盛りの大きさを考えて、目盛りを読むことができるようにすることが重要である。

(エ) 変化と関係

「示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるようにする指導の充実」
基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。

(オ) データの活用

「様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにする指導の充実」
様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明するなど、他者に分かりやすく表現できるようにすることが大切である。

(4) 中学校 数学

ア 調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

(例)・一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める。

- ・連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることを説明する。
- ・Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについて確率を用いて説明する。
- ・A駅から60.0km地点につくられる新しい駅までの運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する。
- ・平行四辺形になるための条件を用いて四角形が平行四辺形になることを証明する。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「数と式」では47.2%、「図形」では50.7%、「関数」では51.3%、「データの活用」では60.8%である。全ての領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全15問中12問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

- △6(2) $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する。(33.1%、+7.4)
- △6(3) 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する。(51.6%、+6.4)
- △9(2) 平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線状に $BE=DF$ となる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する。(42.7%、+6.4)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) 数と式

- ◆1 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ。(36.7%、+4.9)
- ◆2 果汁40%の飲み物 a mLに含まれる果汁の量を、 a を用いた式で表す。(53.1%、+1.2)
- ◆6(2) $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する。(33.1%、+7.4)
- ◆6(3) 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する。(51.6%、+6.4)

(イ) 図形

- ◆ 9 (2) 平行四辺形 $ABCD$ の辺 CB 、 AD を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E 、 F を取っても、四角形 $AECF$ は平行四辺形となることの証明を完成する。(42.7%、+6.4)
- ◆ 9 (3) 平行四辺形 $ABCD$ の辺 BC 、 DA を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E 、 F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G 、辺 DC と線分 AE の交点を H としたとき、四角形 $AGCH$ が平行四辺形になることを証明する。(36.6%、+3.4)

(ウ) 関数

- ◆ 4 一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める。(38.5%、+3.8)
- ◆ 8 (2) A から 60.0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する。(41.4%、+3.4)

(エ) データの活用

- ◇ 7 (1) A の手元のカードが 3 枚とも「ゲー」、 B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの 1 回目を行うとき、1 回目に A が勝つ確率を書く。(80.5%、+3.1)
- ◆ 5 ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m 以上 25m 未満の階級の相対度数を求める。(41.5%、-1.0)

エ 授業改善に向けて

(ア) 数と式

a 「素数の意味の理解を深める活動の重視」

整数の性質について考察する場面において、整数を様々な視点で分類し、1 より大きい自然数のうち、1 とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導することが大切である。また、「1 は素数に含まれる」と考える生徒もいることから、その後の学習において素数を用いる際に、1 は素数に含まれないことを再確認する場面を設定することも大切である。

b 「式の意味を読み取る活動の充実」

文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。例えば、連続する二つの 3 の倍数を $3n$ 、 $3n + 3$ として和を計算した式である $6n + 3$ を $2(3n + 1) + 1$ と変形した式が、 $2 \times (\text{整数}) + 1$ となっていることから、連続する二つの 3 の倍数の和が奇数になることを読み取れるように指導することが考えられる。

(イ) 図形

a 「条件を変えた場合について、元の証明を評価・改善する活動の重視」

証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、元の証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。

b 「方針を立て、それに基づいて証明する活動の充実」

事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、仮定や仮定から導かれる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

(ウ) 関数

a 「関数について、表、式、グラフを関連付けて変化や対応の様子を捉える活動の重視」

一次関数について、表、式、グラフを関連付けて、 x の値の変化に伴って、 y の値がどのように変化するかを調べる活動を通して、変化の割合の意味や一次関数の変化の割合が一定であることを理解したり、 x の増加量に対する y の増加量を求めたりすることができるよう指導することが大切である。

b 「事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実」

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて、それらをどのように用いたかについて数学的に説明する活動を充実することが大切である。その際、表現が不十分な説明を取り上げるなどして、より洗練された表現に高めていく活動を取り入れることが考えられる。

(エ) データの活用

a 「データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の重視」

大きさの異なる複数のデータの分布の傾向を考察する活動を設定し、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて比較する場面を取り入れることを通して、相対度数の必要性和意味について理解できるように指導することが大切である。

b 「不確定な事象の起こりやすさについて確率を求めて判断する活動の充実」

直観的な予想で意見が分かれるような事象を取り上げ、起こりやすさについて確率を求めて判断する活動を取り入れることが大切である。この活動を通して、確率を用いることの必要性を理解するとともに、判断の理由を確率を用いて説明できるように指導することが大切である。

(5) 小学校 理科

ア 調査問題の内容

学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容区分から、バランスよく出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

(例)・赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いをまとめたわけについて、結果を基にして書く。

- ・乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ。
- ・ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ。
- ・水の温まり方について、問題を解決するために適切な方法を検討し、その方法を書く。

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

領域ごとの平均正答率は、「エネルギー」では46.8%、「粒子」では54.2%、「生命」では52.5%、「地球」では69.5%である。全ての領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は全17問中13問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

△4(3) キ 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解することはできている。(66.2%、+5.3)

▼3(1) ヘチマの花のつくりや受粉についての知識を身に付けることに課題がある。(65.2%、-5.5)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) エネルギー

- ◆2(1) 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識を身に付けることに課題がある。(11.0%、+0.4)
- ◆2(2) 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することに課題がある。(47.4%、+4.5)
- ◆2(4) 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識を身に付けることに課題がある。(53.1%、-2.0)

(イ) 粒子

- ◆2(1) 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識を身に付けることに課題がある。(11.0%、+0.4)
- ◆4(1) 水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに課題がある。(52.1%、+1.5)

(ウ) 生命

- ◆ 3 (2) 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能を身に付けることに課題がある。(48.4%、+2.8)
- ◆ 3 (4) レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。(33.3%、+3.4)

(エ) 地球

- ◇ 1 (1) 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することはできている。(81.7%、+2.2)
- ◇ 1 (3) 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することはできている。(80.6%、+2.8)

エ 授業改善に向けて

(ア) エネルギー

- a 「見て、考えて、言葉で表現することを通してより深い理解」
観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けて理解を深めることが、引き続き大切である。例えば、電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わること考察する際に、「巻数を増やす」などの条件を表す言葉や、「電磁石が強くなる」などの現象を表す言葉を使い分けて説明する学習活動が考えられる。
- b 「『ものづくり』と『言葉や図での表現』との往還でより深い理解」
ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりするなどして、学習を通して得た知識の理解を深めることが大切である。例えば、ものづくりでできた装置を図で表現したり、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正したりする学習活動が考えられる。

(イ) 粒子

- a 「学習したことを、自然の事物・現象に当てはめて捉え直すことができるようにする」
既習の内容を根拠にして、自然の事物・現象について予想し、説明できるようにするためには、学習内容を他の学習や生活と関連付けることが大切である。
- b 「より妥当な考えをつくりだすために、様々な場面で解決の方法を改善していく」
科学的に問題を解決するためには、計画した実験方法が予想したことを確かめられるものになっているかを検討して、改善することが大切である。例えば、「解決の方法を発想する場面」、「実験を行い、その結果や方法を振り返る場面」、「問題に対

するまとめを導き出す場面」などが考えられる。

(ウ) 生命

a 「考えたことを科学的な言葉を使用して表現する活動の充実」

理科では、科学的な言葉を使うことが大切である。例えば、花のつくりを観察するときに、図鑑などと照らし合わせておしべやめしべの部位と名称を説明する学習活動、さらに、複数の種類の花を観察し、その共通点としておしべとめしべを見つける学習活動が考えられる。

b 「差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、問題を見いだすことができるようにする」

自然の事物・現象に働きかけて得た事実に基づいて、問題を見いだすことができるようにするためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。例えば、「発芽するために必要な養分はどこからくるのだろうか」という問題を見だし、インゲンマメの種子が発芽した後の様子を観察する。発芽する前と後のインゲンマメの種子にヨウ素液をつけ、でんぷん反応を確認し、発芽した後の種子からはでんぷん反応がないことから、「インゲンマメが成長するためには、肥料や日光が必要なのだろうか」という問題を見いだすことが考えられる。

(エ) 地球

a 「条件を制御した実験の方法を発想し、表現する」

条件を制御した実験の方法を発想し、表現するためには、変える条件や変えない条件に着目し、整理しながら実験を計画することが重要である。検証計画の立案で十分な活動時間を設け、条件制御の必要性を確認した上で、予想や仮説を基に、条件を制御した場合の結果の見通しについての話し合い等を行い、児童自ら条件を制御した計画を立てることが大切である。

b 「観察、実験の結果を基に、問題に正対した自分の考えを表現する」

観察、実験などの結果を基に、自分の考えを表現するためには、結果を整理し、具体的な数値を基に、より妥当な考えをつくりだし、表現することが重要である。結果を基に考察する際に、表やグラフなどに整理する活動を設けることで、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるように指導することが大切である。

(6) 中学校 理科

ア 調査問題の内容

学習指導要領における、第1分野の「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域、第2分野の「生命」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域からバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

C B Tによる出題で、公開問題と非公開問題を組み合わせて構成されている。公開問題は10問で、全日程に共通する問題6問と実施日により異なる問題4問がある。非公開問題は、生徒ごとに異なる16問の問題を出題している。

(例)・ストロー笛をつくり、音について科学的に探究する。(「エネルギー」を柱とする領域)

・ドライアイスの中で燃焼するかどうかを科学的に探究する。(「粒子」を柱とする領域)

・スケッチの有用性について考える。(「生命」を柱とする領域)

・身近な地域の大地の変化について科学的に探究する。(「地球」を柱とする領域)

イ 全体の傾向

(ア) 学習指導要領の内容ごとの正答率と全国との比較

公開問題のうち、全日程に共通する問題である6問について、領域ごとの平均正答率は、「エネルギー」では55.4%、「粒子」では62.0%、「生命」では30.9%、「地球」では38.4%である。全ての領域において全国を上回った。

(イ) 設問ごとの傾向

平均正答率は公開問題22問中14問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△1(2) 「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する。

(54.3%、+8.1)

ウ 学習指導要領の内容ごとの結果の概要

(ア) エネルギー

◇2(2) ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能を身に付けることはできている。(96.7%、+2.1)

◇3(2) 身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識を概念として身に付けることはできている。(89.1%、+3.9)

◆1(1) 電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能を身に付けることに課題がある。(55.4%、+3.5)

◆2(1) 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。(17.0%、+3.0)

◆3(1) 仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することに課題がある。(33.8%、-1.1)

(イ) 粒子

- ◇ 1 (6) 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できている。(82.1%、+2.7)
- ◇ 4 (2) 火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識は概念として身に付けることはできている。(92.1%、-0.7)
- ◇ 5 (1) 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能を身に付けることはできている。(91.4%、-1.6)
- ◆ 1 (2) 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することに課題がある。(54.3%、+8.1)
- ◆ 1 (5) 塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能に課題がある。(49.7%、+4.8)
- ◆ 4 (1) ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈することに課題がある。(49.0%、-1.4)
- ◆ 5 (2) 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題がある。(37.5%、+1.9)
- ◆ 7 (2) 分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識を概念として身に付けることに課題がある。(54.7%、+3.1)

(ウ) 生命

- ◆ 1 (4) 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題がある。(30.9%、+1.2)
- ◆ 6 (2) スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現することに課題がある。(37.9%、-4.0)
- ◆ 7 (1) 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することに課題がある。(38.1%、+3.3)
- ◆ 7 (2) 分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識を概念として身に付けることに課題がある。(54.7%、+3.1)

(エ) 地球

- ◆ 1 (3) 露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈することに課題がある。
(38.4%、+2.2)
- ◆ 8 (1) 地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定することに課題がある。(42.0%、-0.2)
- ◆ 8 (2) 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題がある。(18.0%、-0.1)
- ◆ 9 (1) 気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈することに課題がある。(36.5%、+4.7)

エ 授業改善に向けて

(ア) エネルギー

「考察の妥当性を高めるために、科学的な探究の見通しをもつ学習活動の充実」

理科では、考察の妥当性を高めるために、計画した観察、実験の結果から何が分かればよいのかをはっきりさせてから観察、実験を行うなどして、科学的な探究の過程を振り返り、探究の見通しをもたせることが大切である。

指導に当たっては、科学的な探究の見通しをもつために、すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループなどで「観察、実験の結果から何が分かればよいのか」について、確認して共有するなどの学習場面を設定することが考えられる。

その際、比較したり、関係付けたりする対象を明確にして関係性を示したりするなど、適切に表現できるような言語活動の充実も求められる。

(イ) 粒子

「化学変化を質的・実体的な視点で捉えることができるようにする学習活動の充実」

化学変化を原子や分子のモデルで表すなど、自然の事物・現象を質的・実体的な視点で捉えることが大切である。

指導に当たっては、化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に事物・現象を捉えるようにすることが考えられる。

その際、1人1台端末を使用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにすることが考えられる。

(ウ) 生命

「生命を維持する呼吸の知識をいろいろな生物に活用できるようにする」

観察した生物の共通点と、生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることが大切である。

指導に当たっては、「呼吸を行う」、「光合成を行う」などの生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する働きに関する知識を基に、それらの特徴からいろいろな生物について考察する学習場面を設定することが考えられる。

その際、直接観察することが難しい生物については、博物館等で公開している動画等を 1 人 1 台端末で視聴することも考えられる。

(エ) 地球

「地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、地層の広がりを検討して表現できるようにする」

大地の成り立ちや変化を理解する上で、ボーリング調査の結果から、科学的な根拠を基に地層の広がりを検討して表現できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、離れた地点の幾つかの地層を比較したり、地層モデルを活用したりするなど、地層の広がり方や傾きを空間的な視点で捉える場面を設定することが考えられる。

その際、ボーリング調査の結果が、地盤の安全性の評価やハザードマップの作成に活用されていることに触れ、大地の変化に関する学習と日々の安全な生活とのつながりに気付くようにすることが大切である。

3 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問調査

「児童生徒質問調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数第1位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合である。なお、令和2年度の調査は全て実施していないので、欄を設けていない。

(1) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等【国語】 ※H30 は実施していない。

全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校、中学校ともに、全ての質問項目で全国を上回った。平成27年度と比較すると、「国語の授業の内容がよく分かる」について、小学校では2.0ポイント、中学校では4.7ポイント高くなった。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」について、小学校では3.7ポイント、中学校では7.3ポイント高くなった。

今後も、「全ての子どもが分かる授業」を目指して主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、国語を学ぶ意義や言葉を扱うことのよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
国語の授業の内容がよく分かる。	83.2%	83.5%	84.5%	—	87.2%	86.9%	87.7%	88.6%	88.1%	85.2%	82.8%
国語の勉強は好き。	63.2%	61.6%	64.1%	—	66.6%	60.6%	62.5%	64.2%	64.7%	61.2%	58.3%
国語の勉強は大切だと思う。	92.5%	91.8%	91.6%	—	94.4%	94.8%	94.8%	95.3%	95.4%	—	—
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	88.4%	89.1%	88.0%	—	92.0%	93.3%	92.4%	93.2%	93.9%	92.1%	90.4%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R7 全国
国語の授業の内容がよく分かる。	74.2%	73.5%	79.1%	—	79.8%	83.0%	83.8%	83.1%	84.3%	78.9%	77.0%
国語の勉強は好き。	62.5%	60.8%	66.1%	—	64.1%	63.9%	65.1%	65.8%	68.6%	60.8%	57.9%
国語の勉強は大切だと思う。	88.9%	88.0%	89.2%	—	91.7%	93.2%	93.6%	92.8%	94.6%	—	—
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	82.7%	83.6%	—	89.2%	92.0%	91.4%	90.1%	91.8%	89.9%	88.3%

(2) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等【算数・数学】

全国と比較すると、小学校では、全ての質問項目で全国を上回り、中学校では、「数学の勉強が好き」について、全国を上回った。平成 27 年度と比較すると、「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」について、小学校では 3.1 ポイント、中学校では 7.6 ポイント高くなった。

今後も、きめ細やかな指導の充実を図りながら、中学校では、実感を伴って理解することができるよう、授業改善に取り組むことが重要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R7 全国
算数の授業の内容がよく分かる。	78.8%	79.3%	78.6%	84.0%	83.4%	85.5%	82.0%	81.6%	82.2%	79.0%	78.3%
算数の勉強は好き。	63.8%	66.1%	65.5%	65.3%	69.2%	67.8%	64.0%	61.3%	63.0%	62.4%	57.9%
算数の勉強は大切だと思う。	93.2%	92.7%	91.7%	93.0%	94.6%	95.1%	95.6%	94.9%	95.0%	—	—
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	90.0%	90.0%	88.3%	90.6%	93.1%	93.5%	93.9%	93.5%	94.4%	93.1%	91.6%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R7 全国
数学の授業の内容がよく分かる。	70.6%	69.8%	72.5%	74.2%	74.5%	78.5%	78.7%	72.9%	76.1%	70.1%	70.3%
数学の勉強は好き。	55.1%	56.4%	59.2%	56.5%	59.4%	62.2%	59.1%	56.7%	58.5%	54.6%	53.8%
数学の勉強は大切だと思う。	79.2%	78.0%	80.2%	82.5%	82.4%	85.0%	86.3%	84.3%	86.9%	—	—
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	67.3%	67.3%	68.6%	68.9%	73.0%	75.5%	76.6%	75.0%	78.3%	74.9%	75.2%

（３）学習に対する興味・関心や授業の理解度等【理科】

平成 27 年度と比較すると、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」について、小学校では 8.2 ポイント、中学校では 14.9 ポイント高くなった。

今後も、日常生活や社会との関連を図り、児童生徒が理科を学ぶ意図や有用性を実感できるよう、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組むことが重要である。

【小学校】

質問項目	H27	H30	R 4	R 7	R 7 全国
理科の授業の内容がよく分かる。	88.4%	89.8%	89.4%	88.7%	88.9%
理科の勉強は好き。	82.8%	82.5%	77.6%	79.3%	80.1%
理科の勉強は大切だと思う。	86.4%	84.6%	86.8%	—	—
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	72.5%	72.9%	77.4%	80.7%	79.9%

【中学校】

質問項目	H27	H30	R 4	R 7	R 7 全国
理科の授業の内容がよく分かる。	65.0%	71.4%	76.3%	71.9%	71.4%
理科の勉強は好き。	59.7%	62.5%	66.7%	63.2%	63.8%
理科の勉強は大切だと思う。	64.9%	68.0%	76.8%	—	—
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	48.7%	51.0%	60.5%	63.6%	63.4%

※理科調査は 3 年に一度の調査であるため、調査をしていない年度もある。

（４）規範意識、自己有用感等

平成 27 年度と比較すると、「自分にはよいところがあると思う」について、小学校では 11.0 ポイント、中学校では 18.1 ポイント高くなった。また「将来の夢を持っている」については、全国と同水準となってきた。

「キャリア在り方生き方教育」を通して、子どもたちが自分の価値を認識しながら、他者の価値も尊重する意識を醸成していくことが大切である。また、学級や学校生活において自分自身を見つめ、将来の生き方について考えられる活動を継続することが必要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R7 全国
自分にはよいところがあると思う。	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	79.1%	81.7%	84.4%	85.3%	88.4%	86.9%
将来の夢を持っている。	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	77.3%	77.7%	79.9%	80.3%	82.4%	83.1%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7%	95.9%	95.7%	96.9%	97.2%	96.9%	96.9%	97.2%	97.5%	97.5%	97.2%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.7%	93.2%	92.6%	95.4%	95.4%	96.0%	95.7%	96.3%	96.9%	97.4%	96.4%
友達関係に満足している。	—	—	—	—	—	—	—	91.7%	92.4%	93.1%	91.7%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	—	—	—	—	—	—	—	91.6%	91.5%	93.5%	93.0%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R7 全国
自分にはよいところがあると思う。	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	76.4%	79.3%	79.8%	83.2%	85.7%	86.2%
将来の夢を持っている。	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	65.2%	64.0%	66.1%	66.3%	67.4%	67.5%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	91.7%	91.6%	91.5%	94.1%	93.9%	95.9%	96.0%	95.5%	95.5%	95.7%	95.9%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	91.8%	90.9%	90.9%	93.7%	93.4%	94.6%	93.9%	94.6%	95.6%	96.8%	96.6%
友達関係に満足している。	—	—	—	—	—	—	—	89.4%	90.8%	91.7%	91.4%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	—	—	—	—	—	—	—	87.4%	90.8%	92.0%	91.6%

(5) 学習習慣等

全国と比較すると、「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする」について、小学校では 5.0 ポイント、中学校では、9.3 ポイント高くなっている。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	60.6%	59.5%	62.6%	66.4%	69.2%	72.4%	72.5%	71.3%	—	—	—
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする。	58.6%	59.0%	61.2%	63.2%	63.6%	61.6%	62.7%	58.9%	60.3%	59.0%	54.0%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	45.6%	46.5%	50.3%	49.1%	46.3%	63.4%	57.4%	55.6%	—	—	—
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする。	70.2%	68.9%	71.1%	72.5%	72.6%	80.5%	73.2%	72.1%	72.7%	70.9%	61.6%

(6) 基本的生活習慣等

基本的生活習慣のこれらの質問項目について全国と比較すると、小学校の「毎日、同じくらいの時刻に起きている」を除いては下回っている。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
朝食を毎日食べている。	94.9%	95.0%	94.5%	93.8%	94.5%	94.0%	94.0%	93.3%	93.2%	93.5%	93.7%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.6%	79.1%	78.6%	76.5%	80.4%	81.2%	80.7%	79.5%	80.0%	78.7%	81.9%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	89.4%	89.8%	89.5%	87.7%	90.9%	90.1%	89.2%	89.9%	91.3%	91.1%	91.0%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
朝食を毎日食べている。	91.1%	90.4%	90.8%	88.7%	89.8%	90.8%	89.6%	89.6%	89.2%	89.7%	91.2%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	71.8%	72.6%	73.4%	71.6%	74.3%	76.3%	76.3%	71.6%	74.0%	73.2%	81.0%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.2%	90.6%	91.2%	88.6%	90.1%	90.6%	90.1%	89.3%	90.8%	90.5%	92.6%

(7) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等、総合的な学習の時間、特別活動

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。全国と比較すると、「5年生まで（1、2年生の時）受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」について、小学校では4.7ポイント、中学校では5.8ポイント、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」について、小学校では4.8ポイント、中学校では9.5ポイント高くなった。今後も、主体的に学習に取り組んだり、自分の考えを広めたり深めたりできるように、継続して授業改善をしていくことが重要である。

【小学校】 ※R5までは、「学級の生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	80.7%	80.4%	82.1%	82.1%	82.8%	86.2%	85.0%	80.3%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	68.4%	70.9%	66.6%	68.6%	69.0%	68.9%	68.4%	70.1%	73.0%	68.6%
※学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う。	69.6%	69.6%	70.9%	80.5%	77.8%	82.5%	83.2%	83.9%	87.6%	87.1%	84.9%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	73.9%	72.3%	78.3%	—	74.2%	80.7%	81.1%	82.2%	85.3%	87.1%	82.3%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	74.5%	75.7%	78.2%	80.2%	86.2%	84.4%	80.8%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
1、2年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。	—	—	—	74.7%	77.3%	84.6%	81.9%	82.2%	84.4%	83.5%	77.7%
1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	62.0%	64.8%	58.5%	62.9%	68.7%	71.7%	73.2%	74.4%	75.5%	63.0%
※学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う。	64.3%	66.9%	68.5%	76.7%	73.5%	79.4%	78.9%	80.8%	87.2%	86.2%	84.7%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。	64.5%	63.8%	71.6%	—	68.5%	79.3%	81.5%	81.7%	88.4%	88.9%	79.5%
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。	—	—	—	—	65.1%	71.7%	73.4%	75.7%	84.3%	81.6%	77.3%

(8) ICTを活用した学習状況

全ての質問項目において、全国と比較すると上回っている。全国と比較すると、「5年生まで（1、2年生の時）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している」について、小学校では5.6ポイント、中学校では10.0ポイント高くなった。「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思う」については、小学校では6.3ポイント高くなった。

今後も、子どもたちの自身の学びをより良くしていくことができるよう、様々な場面でのICT機器の活用を推進していく必要がある。

【小学校】

質問項目	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している。	65.7%	67.4%	64.5%	77.3%	71.7%
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	94.6%	95.2%	—	—	—
5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。					
自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思う。	—	—	89.0%	86.3%	81.3%
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思う。	—	—	84.3%	83.9%	77.6%
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思う。	—	—	89.1%	88.5%	84.6%
友達と協力しながら学習を進めることができると思う。	—	—	89.9%	90.2%	87.5%

【中学校】

質問項目	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを週3回以上使用している。	64.4%	73.9%	78.9%	86.5%	76.5%
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	92.7%	94.1%	—	—	—
1、2年生の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。					
自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思う。	—	—	85.0%	—	—
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思う。	—	—	83.3%	—	—
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思う。	—	—	89.7%	—	—
友達と協力しながら学習を進めることができると思う。	—	—	89.7%	—	—

※中学校の「1、2年生の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまるか。」に関しては、生徒一人一人に対して無作為に選ばれた2項目を回答しているため今年度は数値なし。

(9) 地域や社会に関わる活動の実施状況等

令和5年度と比較すると、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」について、小学校では4.5ポイント、中学校では14.1ポイント高くなった。

平成28年度から全市で取り組んできた「キャリア在り方生き方教育」を土台とし、子どもたちが、自分が住む地域との関わりを自分事として捉えて主体的に学習できるよう、継続した指導が必要である。

【小学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	53.1%	55.3%	47.4%	52.5%	57.0%	45.0%	41.1%	47.5%	—	—	—
※地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	—	—	—	—	—	—	—	80.0%	85.4%	84.5%	81.3%

【中学校】

質問項目	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 7 全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	34.3%	35.0%	31.9%	38.6%	39.9%	31.2%	27.1%	27.7%	—	—	—
※地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	—	—	—	—	—	—	—	59.5%	75.2%	73.6%	75.3%

※R4までは、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」